

### 演習問題 1.07

この演習問題では、1 変数ガウス分布に関する規格化条件 ( 1.48 ) を証明する。このために、積分

$$I = \int_{-\infty}^{\infty} \exp\left(-\frac{1}{2\sigma^2}x^2\right) dx \quad \cdots ( 1.124 )$$

を考え、その 2 乗を

$$I^2 = \int_{-\infty}^{\infty} \int_{-\infty}^{\infty} \exp\left(-\frac{1}{2\sigma^2}x^2 - \frac{1}{2\sigma^2}y^2\right) dx dy \quad \cdots ( 1.125 )$$

の形で書いて評価する。直交座標系  $(x, y)$  から極座標系  $(r, \theta)$  に変換し、 $u = r^2$  を代入する。 $\theta$  と  $u$  に関する積分を実行し、両辺の平方根をとることにより、

$$I = (2\pi\sigma^2)^{1/2} \quad \cdots ( 1.126 )$$

が得られることを示せ。最後に、この結果からガウス分布  $N(x|\mu, \sigma^2)$  が規格化されていることを示せ。

[ 解 ]

式 ( 1.125 ) に対して、 $x = r \cos \theta$ ,  $y = r \sin \theta$  と置き、 $I^2$  を極座標系に変数変換すると、

$$I^2 = \int_0^{2\pi} \int_0^{\infty} \exp\left(-\frac{r^2}{2\sigma^2}\right) r dr d\theta$$

となる。(  $\Rightarrow$  [ 直交座標系 - 極座標系間の変数変換 ] 参照 ) ここで、

$$\begin{aligned} I^2 &= \int_0^{2\pi} d\theta \int_0^{\infty} \exp\left(-\frac{r^2}{2\sigma^2}\right) r dr \\ &= 2\pi \int_0^{\infty} \exp\left(-\frac{r^2}{2\sigma^2}\right) r dr \end{aligned}$$

と整理して、 $u = r^2$  と置き、再び変数変換すると、 $\frac{du}{dr} = 2r$  より、

$$\begin{aligned} I^2 &= 2\pi \int_0^{\infty} \exp\left(-\frac{u}{2\sigma^2}\right) r \frac{1}{2r} du \\ &= \pi \int_0^{\infty} \exp\left(-\frac{u}{2\sigma^2}\right) du \end{aligned}$$

と整理できる。 $(e^{f(x)})' = f(x) e^{f(x)} \cdot (f(x))'$  を用いて、これを解いて、

$$I^2 = \pi \left[ -2\sigma^2 \exp\left(-\frac{u}{2\sigma^2}\right) \right]_0^{\infty}$$

$$\begin{aligned}
&= \pi \left[ \frac{-2\sigma^2}{e^{\frac{u}{2\sigma^2}}} \right]_0^\infty \\
&= \pi(0 + 2\sigma^2) \\
&= 2\pi\sigma^2
\end{aligned}$$

以上より、

$$I = (2\pi\sigma^2)^{1/2}$$

が示せた。また、上記の結果から、

$$N(x | \mu, \sigma^2) = \frac{1}{(2\pi\sigma^2)^{1/2}} \exp\left\{-\frac{1}{2\sigma^2}(x - \mu)^2\right\}$$

に対し、 $\int_{-\infty}^{\infty} \exp\left\{-\frac{1}{2\sigma^2}(x - \mu)^2\right\} dx = (2\pi\sigma^2)^{1/2}$  と評価できるので、

$$\int_{-\infty}^{\infty} N(x | \mu, \sigma^2) dx = 1$$

に規格化（正規化）されていることがわかる。

#### 【 変数変換 】

$$\int f(x) dx$$

で  $x = g(y)$  とすると、 $dx = g'(y) dy$  より、

$$\int f(g(y)) g'(y) dy$$

#### 【 多変数関数の変数変換 】

多変数関数の場合は、上記の  $g'(y)$  の部分がヤコビ行列の行列式（ヤコビアン）になる。ヤコビアンは、変数変換した際のある点における微小区間の拡大率を意味する。

$x_i = g_i(y_1, \dots, y_n)$  for  $i = 1, \dots, n$  とすると、ヤコビアンは、

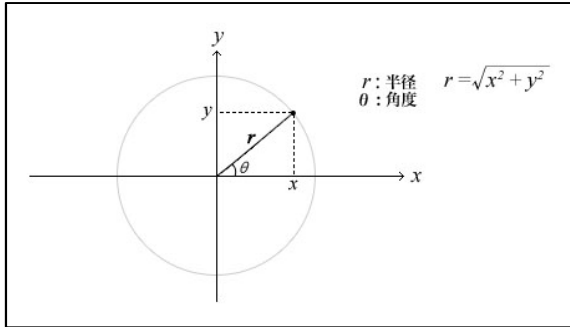
$$\det \mathbf{J} = \det \left( \frac{\partial x_i}{\partial y_j} \right) = \det \left( \frac{\partial (x_1, \dots, x_n)}{\partial (y_1, \dots, y_n)} \right) = \det \begin{pmatrix} \frac{\partial x_1}{\partial y_1} & \dots & \frac{\partial x_1}{\partial y_n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \frac{\partial x_m}{\partial y_1} & \dots & \frac{\partial x_m}{\partial y_n} \end{pmatrix}$$

よって、多変数関数の変数変換は、適当な条件の下で

$$\begin{aligned}
&\int \dots \int f(x_1, \dots, x_n) dx_1 \dots dx_n \\
&= \int \dots \int f(g_1(y_1, \dots, y_n), \dots, g_n(y_1, \dots, y_n)) \det \mathbf{J} dy_1 \dots dy_n
\end{aligned}$$

となる。

【 直交座標系 – 極座標系間の変数変換 】



直交座標系 – 極座標系間では、次の関係を満たす。

$$\begin{cases} x = r \cos \theta \\ y = r \sin \theta \\ r^2 = x^2 + y^2 \end{cases}$$

ここで、 $r$  と  $\theta$  の範囲は、 $0 \leq r < \infty$ ,  $0 \leq \theta < 2\pi$  となる。

ここで、 $I^2$  は  $x$  と  $y$  の多変数関数なので、変数変換にはヤコビアンを用いる。 $x = r \cos \theta$  と  $y = r \sin \theta$  について、パラメータ  $r, \theta$  で、それぞれ偏微分を行うと、

$$\begin{aligned} \frac{\partial x}{\partial r} &= \cos \theta & \frac{\partial x}{\partial \theta} &= -r \sin \theta \\ \frac{\partial y}{\partial r} &= \sin \theta & \frac{\partial y}{\partial \theta} &= r \cos \theta \end{aligned}$$

となる。すると、ヤコビ行列  $\mathbf{J}$  は、

$$\mathbf{J} = \frac{D(x, y)}{D(r, \theta)} = \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial r} & \frac{\partial x}{\partial \theta} \\ \frac{\partial y}{\partial r} & \frac{\partial y}{\partial \theta} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & -r \sin \theta \\ \sin \theta & r \cos \theta \end{pmatrix}$$

となる。このヤコビ行列の行列式 ( ヤコビアン ) は、

$$\det \mathbf{J} = \left| \frac{D(x, y)}{D(r, \theta)} \right| = \left| \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial r} & \frac{\partial x}{\partial \theta} \\ \frac{\partial y}{\partial r} & \frac{\partial y}{\partial \theta} \end{pmatrix} \right| = \begin{vmatrix} \cos \theta & -r \sin \theta \\ \sin \theta & r \cos \theta \end{vmatrix} = r$$

となる。よって、 $I^2$  の式は、

$$I^2 = \int_{-\infty}^{\infty} \int_{-\infty}^{\infty} \exp\left(-\frac{1}{2\sigma^2}x^2 - \frac{1}{2\sigma^2}y^2\right) dx dy$$

$$I^2 = \int_{-\infty}^{\infty} \int_{-\infty}^{\infty} \exp\left(-\frac{x^2 + y^2}{2\sigma^2}\right) dx dy$$

$$I^2 = \int_0^{2\pi} \int_0^{\infty} \exp\left(-\frac{r^2}{2\sigma^2}\right) \det \mathbf{J} dr d\theta$$

$$I^2 = \int_0^{2\pi} \int_0^{\infty} \exp\left(-\frac{r^2}{2\sigma^2}\right) r dr d\theta$$